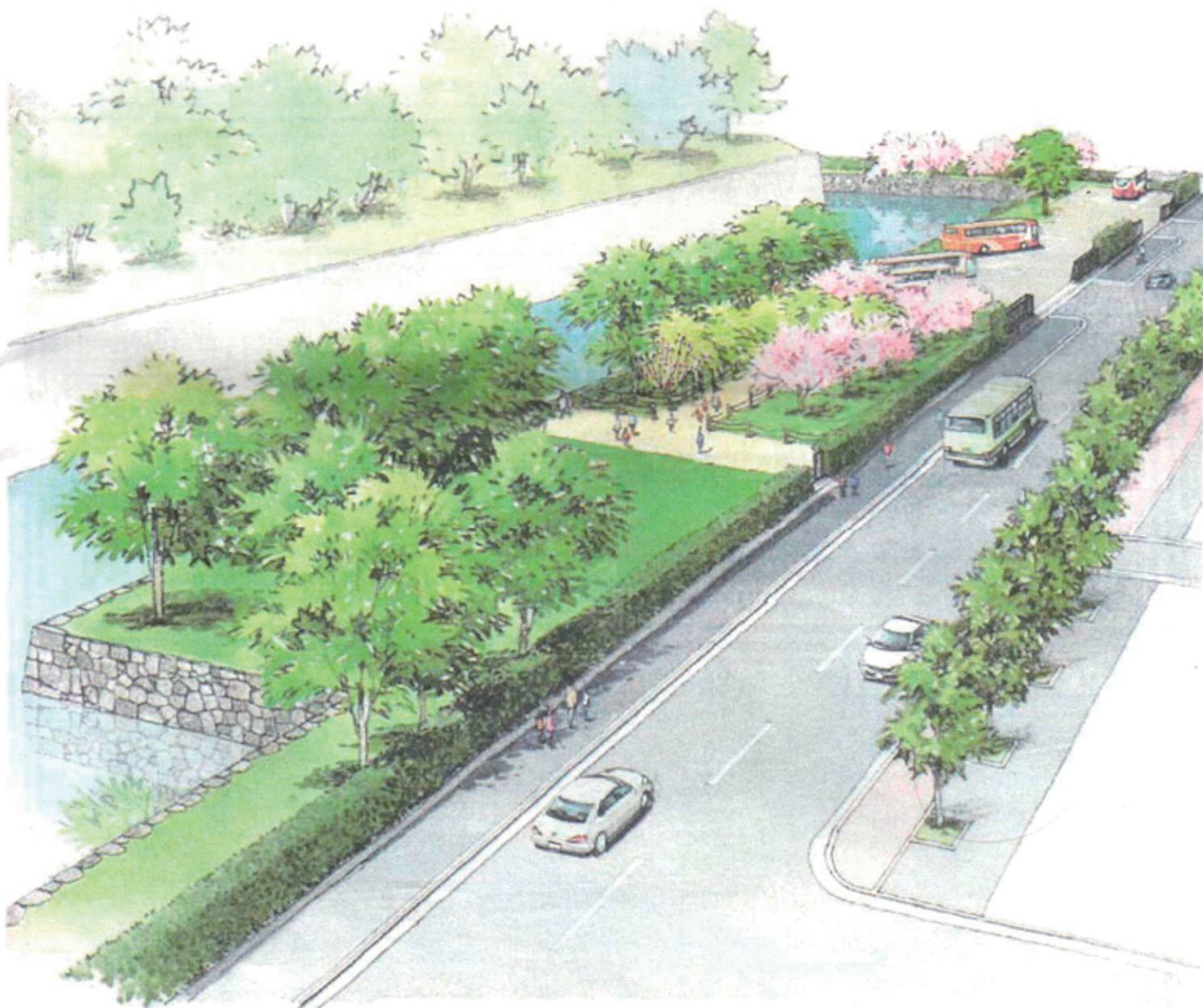


(概要説明資料)

平成28年2月

元離宮二条城東側空間整備計画の変更について (北西角第2駐車場の縮小等)

第2駐車場整備予定図(二条城北西角)



京都市
CITY OF KYOTO

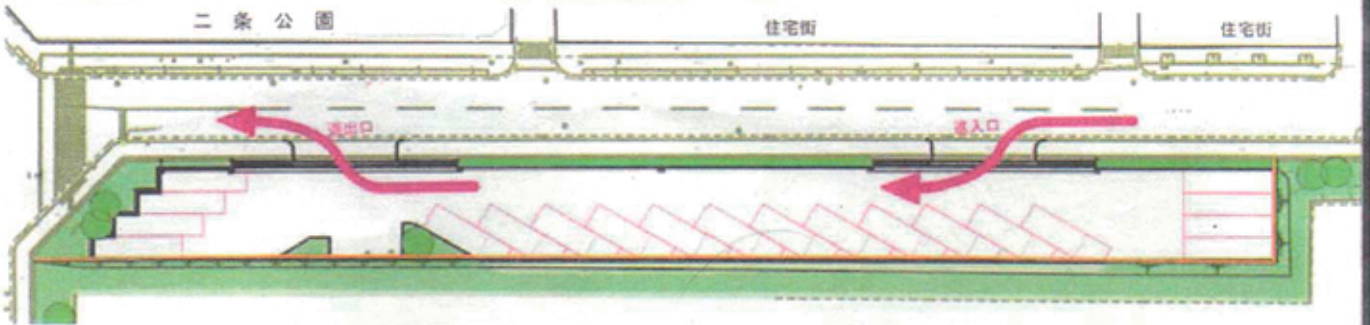
元離宮二条城東側空間

二条城北西角のバス駐車場として予定している第2駐車場は、計画では20台の方法を変更することにより、10台収容に縮小することとします。なお、第2駐車場これにより、住民の皆様が愛着を持ち四季を通じて楽しみにされている梅や桜、

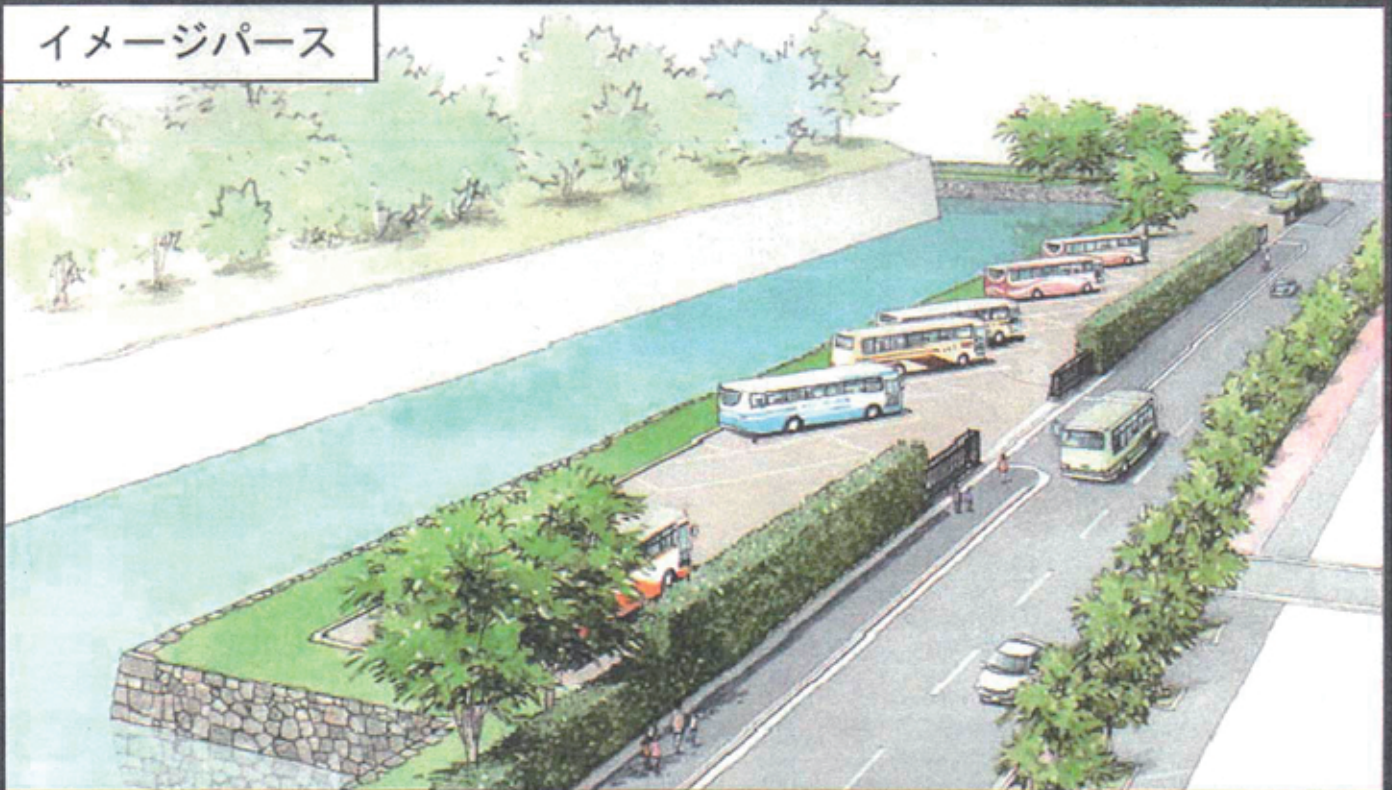
当初計画

駐車台数	20台	面積	約2540㎡ (約160m(間口)×約16m(奥行))
伐採樹木	約130本 (松約40本、桜約15本、梅約15本、モミジ約30本、アラカシ等約30本)		
利用台数	10月の第2駐車場総利用台数 約2800台(1日平均約90台)※1時間当たり約16台		

平面図



イメージパース



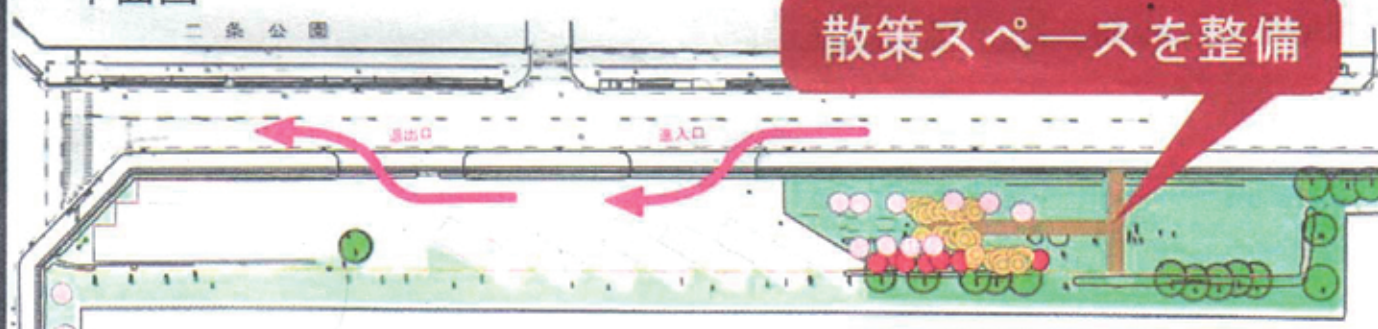
第2駐車場の縮小について

収容としていましたが、観光バスの利用ピーク時に東側空間の普通車駐車場の運用場は、乗客の乗降は行わず、バスの待機場として運用します。
モミジの大半を残し、散策スペースを設けます。

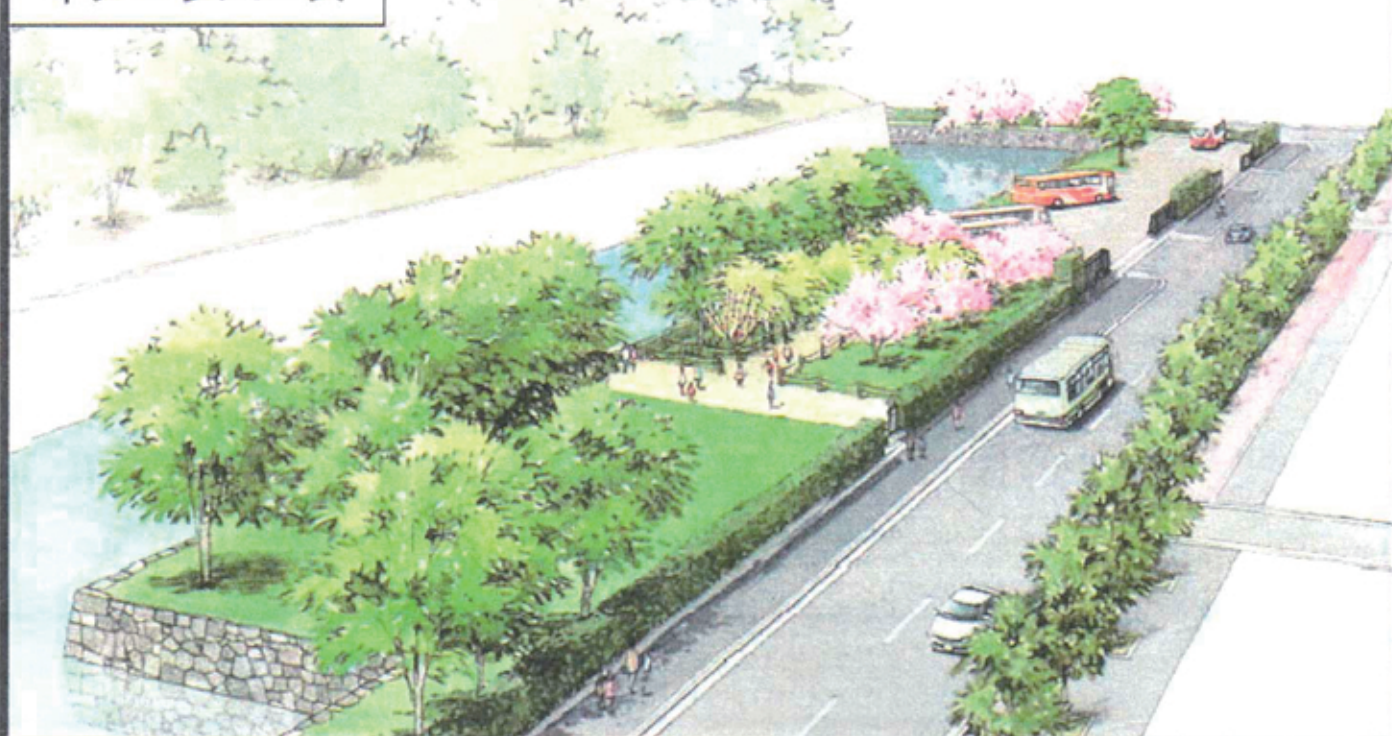
縮小計画

駐車台数	10台	面積	約1470㎡ (約85m(間口)×約16m(奥行))
伐採樹木 (予定)	約40本 (アラカシ25本, 松, モミノキ等) ※梅, 桜, モミジの大半を残します。 ※松約40本, 梅約10本, 桜約5本等は, 苗圃内及び城内, 城外への移植を検討中		
利用台数	10月の第2駐車場総利用台数 約1400台 (1日平均約45台)※1時間当たり約8台 【春と秋は常時約4台, 夏と冬は常時約1~2台が駐車する状態と見込んでいる。】		

平面図



イメージパース



北西角部分のより安全で親しまれる空間を目指して

○苗圃東側を市民が憩える散策スペースとし新たな魅力を創出します。

縮小により多くの桜や梅、モミジなどの樹木が残る苗圃の東側は、石垣や堀が見渡すことができる散策スペースとして市民の皆様へ開放します。



イメージパース

○北西角第2駐車場は、最低限の利用に。

- ・第2駐車場は、東側の第1駐車場を補完するバス待機場として運用。乗客の乗降は行いません。
- ・東側の第1駐車場（11台※）を優先して使用
- ・第1駐車場が満車になった場合に第2駐車場を使用することとし、第2駐車場の利用を最低限にします。
※ 再検討の結果、第1駐車場のバス駐車台数は10台から11台とすることが可能になりました。
- ・年間を通じて最もバス利用が多い10月は、第1駐車場において普通車駐車場の一部をバス駐車スペースに変更し、東側で20台分のバス駐車スペースを確保します。
第2駐車場の10台と合わせて全体で30台の駐車スペースを確保

○通行者の安心・安全対策

- ・第2駐車場入出庫口には係員を配置
- ・車両の入退場の誘導等による安全確保
- ・アイドリングストップの徹底
- ・分かりやすい入出庫口の明示
- ・午後7時から翌朝7時までの間のバスの出入禁止
- ・駐車場入出庫口と公園出入口の距離を20m、駐車場入出庫口と交差点の距離を5m空けることにより、安全性を確保
- ・第2駐車場を利用するバスの運転手への注意喚起を徹底

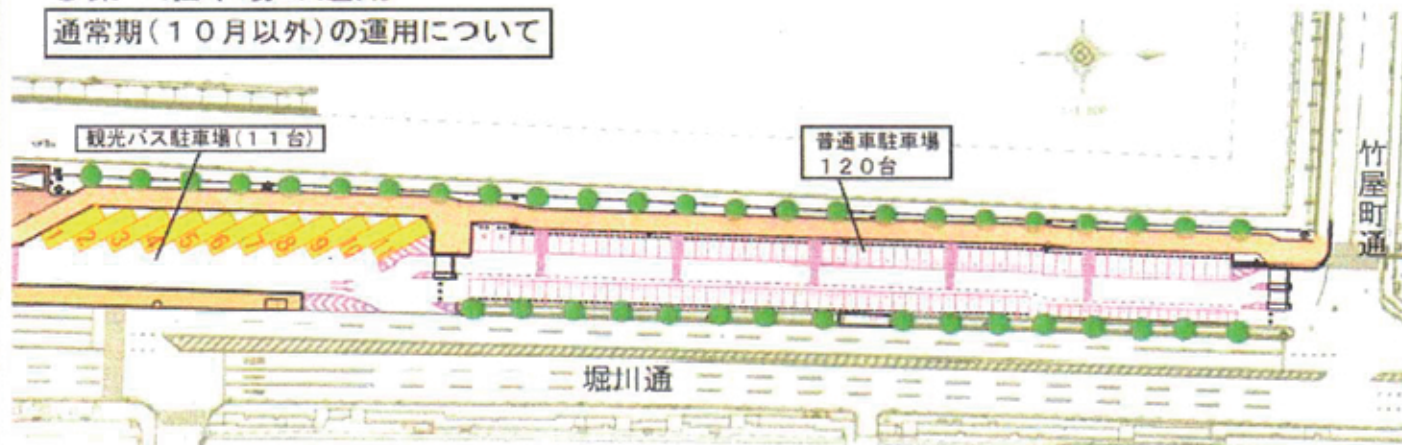
○石垣等文化財の保護に努めます。

- ・北西角第2駐車場整備予定地の土壌を採取し、CBR試験※を実施した結果、計画地の地盤は十分な強度があることが確認されました。
※ CBR試験：土壌を採取し、路床土を突き固め、適度に水を含ませた状態で、圧力を加えること等により、土質の強度を図る試験で、舗装工事の際に一般的に行われます。
(平成27年6月23日～30日に実施)
- ・整備にあたっては、強度の高い舗装材を採用し、場内の段差をなくし、振動による影響を回避します。
- ・整備後は、定期的に石垣の状況のモニタリング調査を行います。

第2駐車場縮小に伴う第1駐車場の運用方法の変更

○第1駐車場の運用

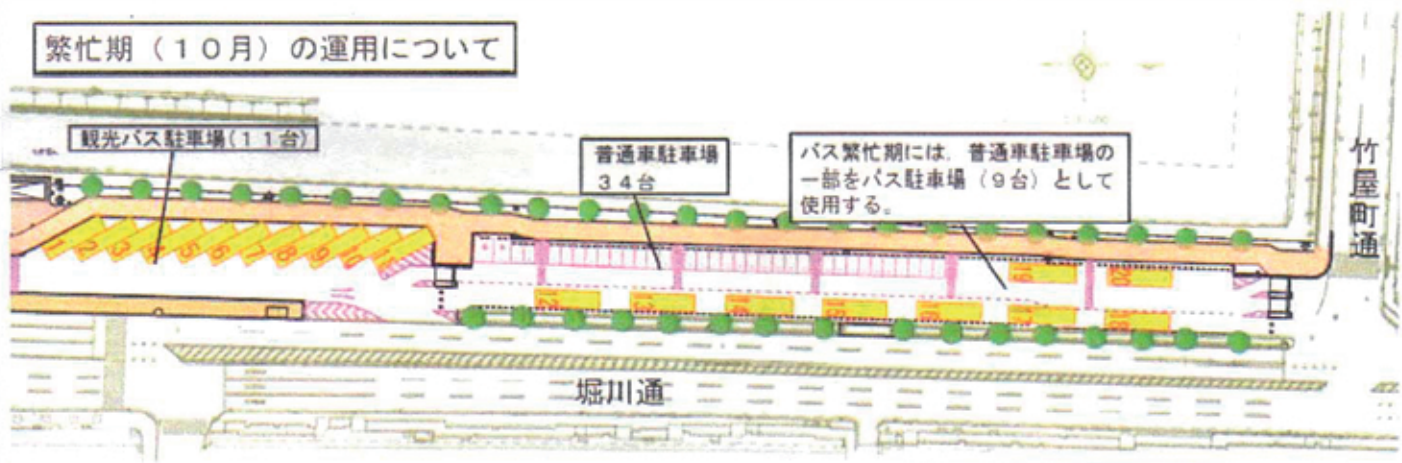
通常期(10月以外)の運用について



第1駐車場のバス駐車場を優先して使用

第1駐車場のバス駐車場を乗降用区画と駐車場区画に分け、駐車場区画が満車になった場合に第2駐車場を使用することとし、第2駐車場の利用を最低限に抑えます。

繁忙期(10月)の運用について



年間を通じて最もバス利用が多い10月は、第1駐車場において普通車駐車場の一部をバス駐車スペースに変更し、東側で20台分のバスを確保することで、第2駐車場(10台分)と合わせて、全体として30台分の駐車容量を確保します。

○駐車場の収容台数

※ 繁忙期の運用は、年間を通じて最もバス利用が多い10月に実施するものです。

現在の駐車場					
普通車					216
バス					30
		第1駐車場	第2駐車場	第3駐車場	合計
現行計画	普通車	120	—	20	140
	バス	10	20	—	30
	繁忙期(10月) 普通車	55	—	20	75
変更案	普通車	120	—	20	140
	バス	11	10	—	21
	繁忙期(10月) 普通車	34	—	20	54
	繁忙期(10月) バス	20	10	—	30

エントランス広場及び第

本整備は、二条城の歴史的遺産を保全しつつ、東大手門前に来城者を迎えるにふさわしい空間とし、ただし、東側で必要なバス駐車台数の全てを確保できないため、普通車駐車場の駐車台数を削減し

○ 整備コンセプト

ア 威厳のある景観づくり

東大手門と東南隅櫓などの歴史的景観を阻害する要因を除去

イ 来城者や市民が文化財（史跡等）に親しめる空間づくり

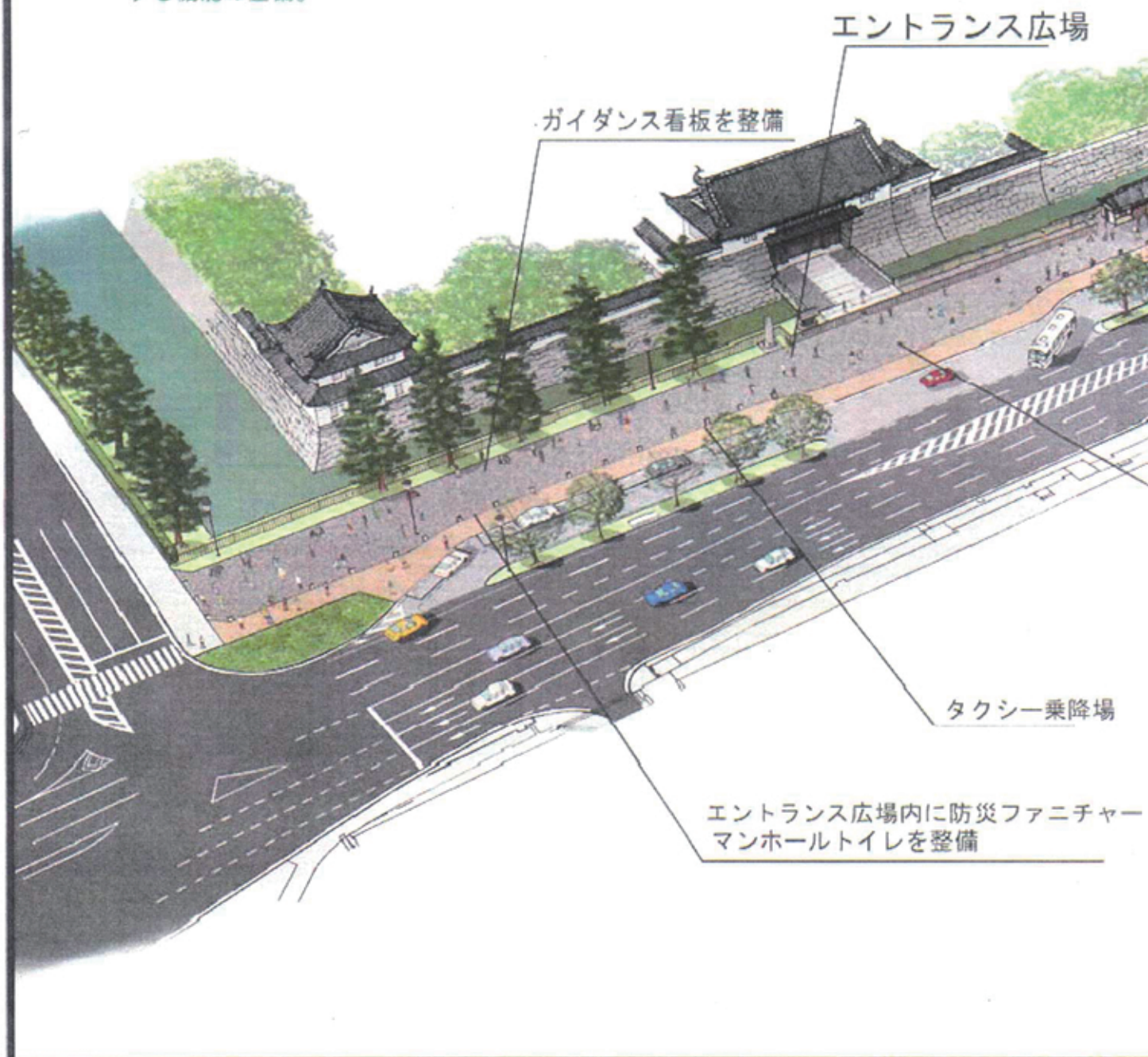
インフォメーション機能の整備、緑や木陰を配置した快適な空間の提供、

公共交通機関利用の促進と、来城者に配慮した観光バス駐車場整備

ウ 安心・安全な環境づくり

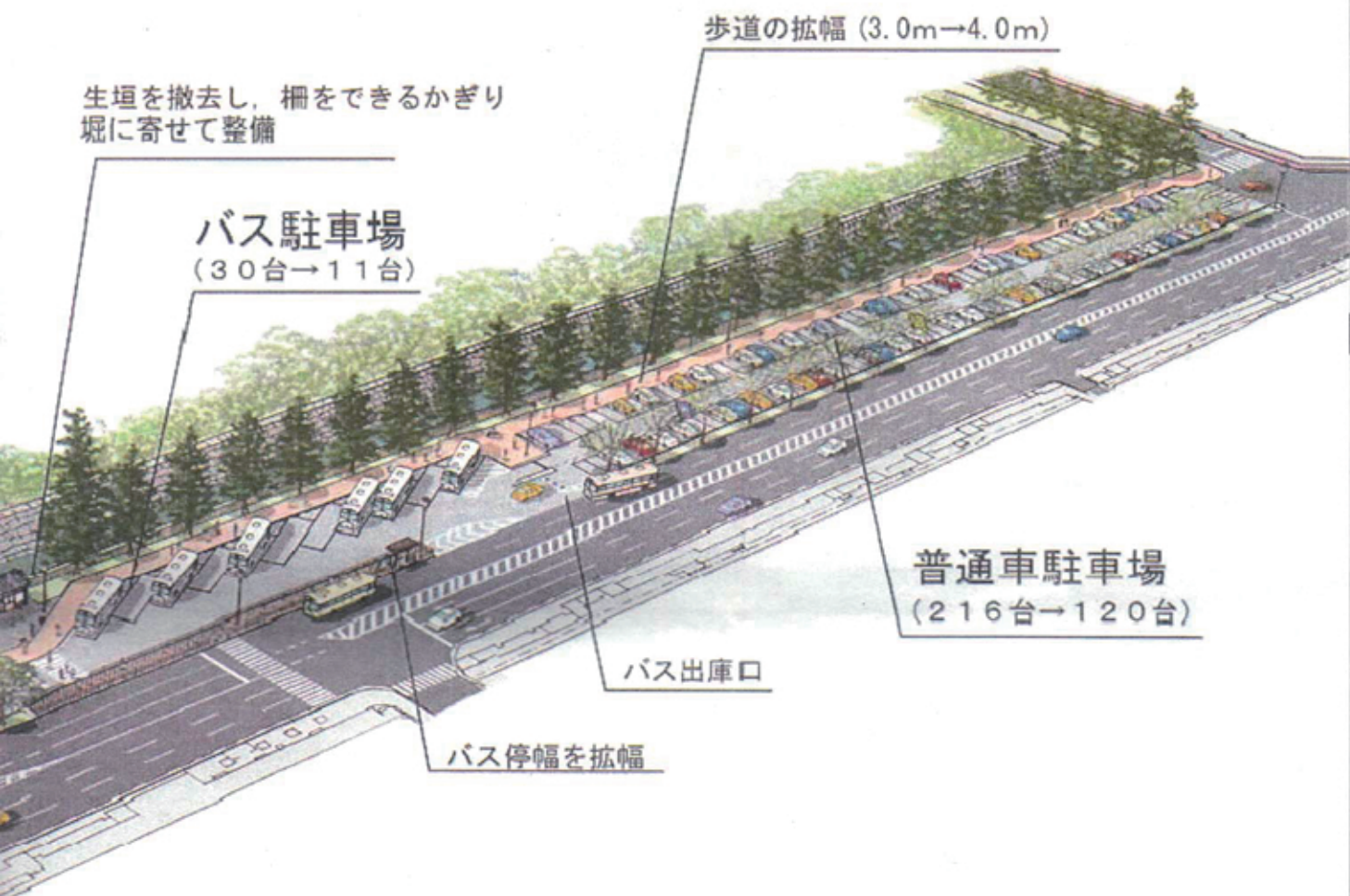
来城者のみならず、日常通行する歩行者、ランナー、自転車と車両の動線の整理、

安心・安全な通行環境の提供。また、二条城は広域避難場所であり、災害時に資する機能の整備。



駐車場の整備計画について

エントランス広場を設け、安全性の向上、景観の改善、災害時の対応の強化を図ろうとするものです。
②、バス専用の第2駐車場を整備し、必要台数を確保しようとする計画です。



一般歩行者用のスペースと
来城者用のスペースを区分

エントランス広場イメージ図



駐車場の必要性について

○二条城の環境

- ・二条城は金閣寺や清水寺と並ぶ観光名所で、多くの観光客が訪れます。
(平成26年度京都観光総合調査 外国人観光客実態調査 ①清水寺64.4% ②金閣寺54.0% ③二条城47.4%)
- ・公共交通機関による観光客は増えていますが、観光地を効率よく回るために、観光バスによる来城は多くあります。

現 状

○観光バスは増加傾向

- ・二条城における観光バスの利用は増加傾向にあります。
- ・二条城駐車場は、観光シーズンの10月に満車になることがあります。

○普通車は減少傾向

- ・二条城の普通車駐車場の利用は、減少傾向にあります。
- ・二条城駐車場では、修学旅行のピーク時には、貸切タクシーが一時65台駐車したというデータがあり、関係者によると今後も増加すると見込まれます。
- ・お年寄りや体の不自由な方の利用もあります。

駐車場年間利用台数

	バス駐車台数(昼間)	普通車駐車台数
平成24年度	約2万0100台(約1万4200台)	約11万400台
平成25年度	約2万1700台(約1万5400台)	約11万700台
平成26年度	約2万2000台(約1万6100台)	約10万400台

京都市における駐車場の考え方【「歩くまち京都」総合戦略】及び【京都市駐車場施設に関する基本計画】

- ・都心において、必要以上の駐車場の整備を抑制するなど京都にふさわしい駐車場施策を構築します。
- ・観光地では、自動車利用による来訪を抑制し、公共交通の利用促進を図ります。
- ・観光バスは、予約システムの拡充や駐車スペースの確保等を図ることにより、適切に誘導します。



○バスは、現状の台数を確保し、マイカーは減らします。

- ・このような状況の中、施設管理者として来城者用の駐車場は必要であると考えています。
- ・バス駐車場 バスでの来城が増加している状況であり、ピーク時には現状の30台が必要(それ以外は21台)
- ・普通車駐車場 マイカー抑制を推進するため、台数を減少(216台→140台)させますが、現状では一定の台数が必要となります。
- ・現実的には、観光客がバスやマイカーで来られる状況を考えると、バス及び普通車の駐車容量のこれ以上の削減は、周辺でのうろつき通行や不法な路上駐車増加の懸念があります。

○将来的な駐車場の縮小に向けて、公共交通機関の更なる利用促進に努めます。

発行：京都市文化市民局文化芸術都市推進室元離宮二条城事務所
京都市中京区二条通堀川西入二条城町
電話 075(841)0096 ファックス 075(802)6181
平成28年2月発行 京都市印刷物 第 273194号